



## 2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月2日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 経営企画本部長 (氏名) 川田 浩司

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2019年8月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	29,947	2.0	2,543	5.8	2,671	6.1	1,909	9.8
2019年3月期第1四半期	29,371	6.2	2,700	3.3	2,843	0.8	2,117	3.6

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 2,163百万円 (78.0%) 2019年3月期第1四半期 1,215百万円 (20.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	34.08	33.80
2019年3月期第1四半期	35.43	35.19

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	126,678	76,121	59.2	1,340.26
2019年3月期	126,747	75,531	58.5	1,322.79

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 74,971百万円 2019年3月期 74,195百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		15.00		20.00	35.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		18.00		18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	60,000	0.1	4,700	7.3	5,100	9.5	3,500	18.3	62.50
通期	118,000	3.8	9,200	13.1	9,500	17.9	6,600	19.8	117.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	64,633,646 株	2019年3月期	64,633,646 株
2020年3月期1Q	8,695,453 株	2019年3月期	8,543,353 株
2020年3月期1Q	56,052,268 株	2019年3月期1Q	59,780,214 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## 【添付資料】

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調が続きました。世界経済では、米国で景気が堅調に推移する一方、米中貿易摩擦の影響による中国経済の減速や、先行き不透明な欧州経済など、引き続き注視が必要な状況にあります。

そのような環境のなか、当社グループでは、「21世紀型企業への変革！」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても常にお客様のニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、「新規事業の創出」と“グローバル事業の拡大”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第1四半期の連結業績は、売上高 299 億 47 百万円（前年同期比 2.0%増）、営業利益 25 億 43 百万円（同 5.8%減）、経常利益 26 億 71 百万円（同 6.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 19 億 9 百万円（同 9.8%減）となりました。

#### [セグメント別の業績概況]

##### (車輛資材事業)

国内事業では、新車販売台数が堅調に推移するなか、“革を超える新素材”「クオーレ®」や夏冬快適素材「クオーレモジュレ®」などの高付加価値商品が堅調に推移しましたが、商品構成の変化や海外生産比率の増加により、前年同期比で減収・減益となりました。

海外事業では、前年度、大幅な受注増に対応するべく生産能力拡大に取り組んでおりましたメキシコでの生産効率と歩留まり改善が進み、当第1四半期は営業利益および経常利益ともに黒字に転換いたしました。しかしながら、米中貿易摩擦における米国の追加関税および中国市場の減速の影響、また原材料価格の高騰を受け、海外事業全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

当事業の売上高は 172 億 85 百万円（前年同期比 1.7%減）、営業利益 14 億 51 百万円（同 10.5%減）となりました。

##### (ハイファッション事業)

近年、アパレル業界や消費者において、売れ残り在庫を作らない環境に配慮したものづくりに関心が高まるなか、糸から縫製までのグループ一貫機能で差別化商品を小ロット・短納期・在庫レスで製造する独自のViscotecs®システムに注目が集まっております。このような環境のもと、BtoC事業においては、バーチャル試着で多様な消費者ニーズに対応し“あなただけの一着”をお届けする「Viscotecs make your brand®」事業の展開に先行費用を投じております。当期より、BtoB事業においても同様のビジネスモデルでの店頭販売がスタートしました。

また、インナー向けBtoB事業においては、当社グループのニット技術と加工技術を駆使した差別化素材の販売が堅調に推移しました。

しかしながら、アパレル市場全体は依然厳しい状況にあり、セグメント全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

当事業の売上高は60億21百万円（前年同期比3.2%減）、営業利益は1億85百万円（同39.2%減）となりました。

##### (エレクトロニクス事業)

繊維と金属の複合化技術により差別化を高めた導電性素材「プラット®」は、より付加価値を高めた部品化・製品化販売で、スマートフォン、タブレットやゲーム機への採用拡大が進んでおります。また、ビスコテックス・システム販売事業では、システム本体およびサプライ商品が売上高を伸ばしました。KBセーレン(株)では、スーパー繊維の「ゼクシオン®」の用途展開が順調に進んでおり、今後の受注拡大に対応するべく、生産能力の増強に着手しております。

なお、前連結会計年度末に連結子会社となったケイ・エス・ティ・ワールド(株)の業績が、新たに当エ

レクトロニクスセグメントに加わっております。

当事業の売上高は28億53百万円（前年同期比52.3%増）、営業利益は5億66百万円（同25.0%増）となりました。

#### （環境・生活資材事業）

新設住宅着工戸数が弱含みで推移するなか、当セグメント主力のハウジング資材事業では、優れた省エネ性能をもつ遮熱型ハウスラップ材や遮熱・高止水型ルーフィング材をはじめ、当社グループ独自の差別化商品群が売上高を伸ばしました。

環境・土木分野においては、独自の繊維技術により商品化した防草シート「グラスガード®」の販路拡大が進んでおり、健康・介護事業でも、快適機能性を高めた新製品の販売が伸びました。

当事業の売上高は21億28百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益は2億49百万円（同0.6%増）となりました。

#### （メディカル事業）

当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分「ピュアセリシン™」配合のコモエース化粧品は、自社サイトや百貨店に加え、セレクトショップなどの常設店舗における販売強化を進めており、順調に売上高を伸ばしました。

卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」は、顧客ニーズにマッチした新商品投入を継続しつつ、メディア展開をはじめとするプロモーションに注力し販売拡大を進めております。

また医療資材分野では、KBセーレン(株)の「エスパンシオーネ®」（特殊原糸）やグループ一貫機能を活かした差別化商品が売上高を伸ばしましたが、薬価改定の影響等により、一部の医療用製品において売上高の減少がありました。

当事業の売上高は14億22百万円（前年同期比8.1%減）、営業利益は3億83百万円（同7.1%増）となりました。

#### （その他の事業）

（株）ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレン商事(株)の保険代理業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は2億36百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は1億27百万円（同2.2%減）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して68百万円減少の1,266億78百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金が減少した一方で現金及び預金や棚卸資産が増加し、前連結会計年度末と比較して1億78百万円の増加となりましたが、固定資産は、保有有価証券の時価評価により投資有価証券が減少したことなどにより、前連結会計年度末と比較して2億47百万円減少しました。負債の部は、借入金の純増がありましたが、賞与引当金や未払法人税等の減少などにより、6億58百万円減少し、505億56百万円となりました。純資産は、自己株式の取得やその他有価証券評価差額金の減少がありましたが、利益剰余金や為替換算調整勘定の増加などにより、全体で5億89百万円増加し、761億21百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は141億22百万円となり、前連結会計年度末より19億35百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、32億42百万円の収入（前年第1四半期連結累計期間は17億31百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益26億33百万円、減価償却費12億52百万円、売上債権の減少25億5百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、10億6百万円の支出（前年第1四半期連結累計期間は10億4百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出8億44百万円などによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、5億45百万円の支出（前年第1四半期連結累計期間は15

億 18 百万円の支出)となりました。これは主に、借入金の純増による収入 11 億 1 百万円、自己株式の取得 3 億 13 百万円、配当金の支払による支出 11 億 30 百万円などによるものです。

**(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明**

第 2 四半期連結累計期間および通期の業績予想につきましては、第 1 四半期の業績及び今後の業績動向などを踏まえ、2019 年 5 月 14 日に公表いたしました当初の業績予想を修正いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,122	15,908
受取手形及び売掛金	29,405	27,273
有価証券	—	200
商品及び製品	11,749	11,962
仕掛品	2,935	3,154
原材料及び貯蔵品	5,394	5,287
その他	3,457	3,459
貸倒引当金	△11	△14
流動資産合計	67,052	67,231
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,340	22,341
機械装置及び運搬具（純額）	10,878	10,772
工具、器具及び備品（純額）	592	636
土地	11,709	11,902
リース資産	421	395
建設仮勘定	618	795
有形固定資産合計	46,560	46,845
無形固定資産		
のれん	1,286	1,249
その他	3,097	3,077
無形固定資産合計	4,383	4,326
投資その他の資産		
その他	8,931	8,454
貸倒引当金	△181	△179
投資その他の資産合計	8,750	8,274
固定資産合計	59,694	59,446
資産合計	126,747	126,678
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,804	17,231
短期借入金	3,256	4,701
未払法人税等	1,413	607
賞与引当金	1,329	548
その他	5,008	5,347
流動負債合計	28,812	28,435
固定負債		
長期借入金	14,075	13,733
役員退職慰労引当金	160	160
退職給付に係る負債	6,055	6,106
その他	2,110	2,120
固定負債合計	22,402	22,121
負債合計	51,215	50,556

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,812	16,804
利益剰余金	49,610	50,411
自己株式	△10,615	△10,850
株主資本合計	73,327	73,885
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,086	1,782
為替換算調整勘定	△1,278	△730
退職給付に係る調整累計額	59	35
その他の包括利益累計額合計	867	1,086
新株予約権	472	436
非支配株主持分	863	712
純資産合計	75,531	76,121
負債純資産合計	126,747	126,678



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	29,371	29,947
売上原価	21,523	21,854
売上総利益	7,847	8,093
販売費及び一般管理費	5,146	5,550
営業利益	2,700	2,543
営業外収益		
受取利息	63	67
受取配当金	59	65
受取補償金	133	58
その他	56	73
営業外収益合計	312	264
営業外費用		
支払利息	10	34
為替差損	145	93
その他	13	8
営業外費用合計	169	136
経常利益	2,843	2,671
特別利益		
固定資産売却益	2	0
特別利益合計	2	0
特別損失		
固定資産処分損	0	5
投資損失引当金繰入額	—	33
特別損失合計	0	38
税金等調整前四半期純利益	2,845	2,633
法人税等	720	702
四半期純利益	2,124	1,930
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	20
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,117	1,909

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	2,124	1,930
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	328	△304
為替換算調整勘定	△1,216	561
退職給付に係る調整額	△21	△24
その他の包括利益合計	△909	232
四半期包括利益	1,215	2,163
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,219	2,135
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	27

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,845	2,633
減価償却費	1,125	1,252
固定資産処分損益(△は益)	△1	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	1
投資損失引当金の増減額(△は減少)	—	33
賞与引当金の増減額(△は減少)	△797	△783
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	32	12
受取利息及び受取配当金	△122	△132
支払利息	10	34
為替差損益(△は益)	81	△0
売上債権の増減額(△は増加)	△330	2,505
たな卸資産の増減額(△は増加)	△840	△79
仕入債務の増減額(△は減少)	686	△968
未払消費税等の増減額(△は減少)	△78	△79
その他	67	74
小計	2,677	4,508
利息及び配当金の受取額	122	130
利息の支払額	△10	△34
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,058	△1,362
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,731	3,242
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,490	△844
有形固定資産の売却による収入	3	0
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△8	△314
定期預金の純増減額(△は増加)	592	148
その他	△102	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,004	△1,006
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△100	2,050
長期借入金の返済による支出	△449	△948
自己株式の取得による支出	—	△313
配当金の支払額	△896	△1,121
非支配株主への配当金の支払額	△72	△8
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△178
その他	—	△24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,518	△545
現金及び現金同等物に係る換算差額	△553	108
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,345	1,798
現金及び現金同等物の期首残高	13,222	12,187
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	136
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,876	14,122

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、取得株式数5,000,000株、総額10,000百万円を上限として2018年11月9日から2019年11月8日の期間で自己株式の取得を進めています。これにより当第1四半期連結累計期間において自己株式を213,600株取得しました。新株予約権の行使による自己株式の減少がありましたが、この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が235百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が10,850百万円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、前連結会計年度において非連結子会社であったKBセーレン・D T Y(株)および広州特拓汽車内飾有限公司(中国)は、重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	17,579	6,218	1,873	1,931	1,547	29,150	220	29,371	—	29,371
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	3	86	139	1	230	192	422	△422	—
計	17,579	6,221	1,959	2,071	1,548	29,381	412	29,793	△422	29,371
セグメント利益	1,622	305	453	247	358	2,986	130	3,117	△416	2,700

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	17,285	6,021	2,853	2,128	1,422	29,711	236	29,947	—	29,947
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	2	50	44	1	99	271	371	△371	—
計	17,285	6,023	2,903	2,173	1,424	29,810	508	30,319	△371	29,947
セグメント利益	1,451	185	566	249	383	2,836	127	2,964	△421	2,543

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車両資材……………自動車・鉄道車輛等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサブライ、電子機器、シリコンウエーハの成膜加工等
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材
- (5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連結累計期間432百万円、当第1四半期連結累計期間440百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。